

**取組項目 No.5 学校の防災体制の確立と防災教育の推進**

〔取組概要〕

- 岩手県では、震災津波で明らかになった多くの教訓を踏まえ、学校の防災体制を確立するために、「学校防災・災害対応指針」と「教育委員会危機管理マニュアル・改訂版」を策定しました。各学校では、これらをもとにマニュアルの見直しを行い、各校や地域の实情に応じた防災教育に取り組んでいます。
- 県では、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材育成を目的に、震災津波で明らかになった3つの教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」を育てる「いわての復興教育」を全県で取り組んでいます。また、平成26年5月に、復興教育副読本を作成・配布しました。各小中学校では、副読本も活用した教育活動が行われています。
- また、県では、全県を対象とした防災教育の研修会の開催や学校・地域が一体となった防災訓練等を行うことにより、学校・家庭・地域・関係機関が連携した防災教育・防災管理の充実に向けた取組を進めています。

**取組事例① 『指針』と『マニュアル・改訂版』の策定について**

県が作成した「指針」「マニュアル」では、発災時別の対応、津波警報発表時や二次災害のおそれがあるときの児童生徒の安全確保について示しています。

各学校では、自校のマニュアル等に基づいて、家庭の協力のもと保護者への一斉メール配信による連絡や、引き渡しカードの活用などにより、警報解除後の安全確認や引き渡しの訓練が行われています。



保護者への引き渡し訓練（洋野町立種市小学校）

**取組事例② 『いわての復興教育』における防災教育の推進について**

「いわての復興教育」プログラム【改訂版】では、3つの教育的価値と具体の21項目の取組視点を示しています。

このプログラムに基づき、学校・地域の实情に応じた教育活動が各学校で展開されています。

例えば、「かかわる」では、被災地での災害ボランティア活動、「そなえる」では、児童生徒が主体的に判断・行動するための学習や訓練、地域の避難訓練への参加などが行われています。



避難経路についての話し合い（大船渡市立越喜来小学校）



被災地でのボランティア活動（盛岡工業高校）

**取組事例③ 学校・家庭・地域が連携した防災教育の推進について**

県では、学校・家庭・地域・関係機関が連携した防災教育や防災体制を推進するため、研修会や訓練を実施しています。

県防災教育研修会では、学校関係者だけでなく市町村教育委員会や市町村の防災担当者も参加し、災害発生時の対応をシミュレートするなど、実践的な地域連携のあり方について学んでいます。

また、県総合防災訓練では、中学生が避難所の設営や受付を行うなど、災害発生時に自分の命を守るとともに自分たちにできることについて訓練を通して学んでいます。



避難所での受付体験（滝沢市立滝沢第二中学校）

**取組事例④ 副読本・防災教育教材DVDの作成及び活用について**



副読本を活用した授業（宮古市立川井小学校）

県では、震災津波を風化させることなく、児童生徒が3つの教育的価値について学ぶことができるよう、副読本「いきる かかわる そなえる」を作成し、各学校に配布しました。

副読本は、復興教育プログラム【改訂版】に連動しており、小学校低学年・高学年用、中学校用の3種類作成しています。

また、防災についての学習教材として、プログラムにも連動した「防災教育教材」DVDを作成し、各学校に配布しており、これらの教材を活用した教員向けの研修会も実施しています。

**取組事例⑤ 防災教育とこころのサポートについて**

被災等によって心のダメージを受けた児童生徒の中には、避難訓練や注意報・警報のサイレンの音で心身の体調を崩すこともあります。

このことから、県では、スクールカウンセラーの配置などによる「こころのサポート」と「防災教育」を有機的に組み合わせ、避難訓練や防災の学習を実践しています。



スクールカウンセラーとの授業（大槌町立大槌小学校）



〔副読本〕 小学校低学年用



〔副読本〕 小学校高学年用



〔副読本〕 中学校用



防災教育教材DVD